

## 編集後記

2020年初からのコロナ禍で、今年度は春学期がほぼ全面的なオンラインの遠隔授業となった。秋学期も遠隔・対面のハイブリッド授業となり、教学面では試行錯誤の一年となった。往々にして、大きな危機に見舞われた時ほど、否応無しに既存のシステムからの大きな変革が行われ、新しい型が出来るものである。我々の携わる教育も手探りの様々な工夫を通して、一年前とはずいぶん違ったものになったのではなかろうか。

さて、今号では、伊伏啓子(北陸大学)、千葉謙悟(中央大学)の学外の専門家お二人の寄稿も得て、巻頭に特集「近代西洋人による中国語の品詞研究」を組むことができた。この特集は、主に19世紀の西洋人が外国語としての中国語の品詞をどのように分析したのか、そのプロセスを解明しようとするプロジェクトの成果の一部である。19世紀は西洋と東洋の言語文化接触が爆発的に盛んになった時期であり、特に東洋にとっては受け身ながらも大きな変革の時代であった。特集は変革の時代の東西言語文化接触の根幹であることばの問題について考えるものであり、同じく変革の時期にある現在の国際コミュニケーション学部での学びにも示唆を与えてくれるものであると考える。ご多忙の中、寄稿下さった伊伏、千葉の両氏に心より感謝申し上げたい。

また、今号はコロナ禍での発行ということで当初は極めて薄めの一冊になるだろうと予想していた。蓋を開けてみると、本学専任教員、海外の大学で活躍する卒業生、退職者からも多数の投稿があり、愛知大学の前身のひとつである東亜同文書院大学の大旅行に関するものをはじめ、英語の品詞分析、茶道、音楽、鬼師などの言語文化の事象に関して、各々の専門分野に関する研究論文、翻訳を掲載することが出来た。やはり、大学での教育は研究者でもある個々の教員の地道な研究があつてこそ、である。次号以降も意欲的な研究の成果が多数寄せられることを期待したい。

(S)

## 文明21 愛知大学国際コミュニケーション学会紀要

※愛知大学国際コミュニケーション学会発行の『文明21』に掲載された論文などすべての著作権は、愛知大学国際コミュニケーション学会に所属します。

2021年3月5日 印刷  
2021年3月25日 発行

第46号

編集発行 愛知大学国際コミュニケーション学会  
〒453-8777 名古屋市守山区平池町四丁目60番6  
TEL (052) 564-6128 FAX (052) 564-6228  
E-mail: aic@vega.aichi-u.ac.jp URL: <http://ic.aichi-u.ac.jp/>

編集発行 株式会社シンプリ